

# 川崎市市民ミュージアム収蔵品目録

歴 史 資 料

第 3 集

1997

川崎市市民ミュージアム

## はじめに

川崎市市民ミュージアムでは、市域に関わる考古・歴史・民俗資料をはじめとして、今日の都市文化に大きな役割を果たした複製技術による芸術作品の調査研究および収集・保存を目的に、1989年11月に開館した複合文化施設です。

さて市民ミュージアム歴史部門では、すでに準備室の段階から多くの市民の方々のご協力のもと、歴史資料の所在調査や収集をすすめてまいりました。また1965年以来博物館活動を担ってきた産業文化会館（現教育文化会館）の所蔵資料も保管替えとなっており、現在歴史部門では近世期の地方文書を中心に、数多くの資料を収蔵しています。そこで、これら所蔵資料の内容を紹介し、かつ多くの研究者や市民の方々の利用に供することを目的として、市民ミュージアム収蔵目録—歴史資料—を順次刊行しています。これにより所蔵歴史資料につき、広くご利用いただければと思います。また一方歴史部門では、川崎市域史を解明するために不可欠な文書資料を共有の財産として広く公開しようと、『川崎史資料叢書』を刊行しております。こちらも併せて、ご利用いただければと思います。

なお本書は、第三集として近世期を通し東海道の宿場として栄えた川崎宿に関わる史料を唯一伝える森家文書を収録しました。

最後になりましたが、資料調査についてご快諾いただき、さらに貴重な古文書をご寄贈くださいました旧所蔵者の皆様に、あらためて厚く御礼を申し上げます。

1999年3月

川崎市市民ミュージアム

# 目 次

はじめに .....	1
凡 例 .....	4
解 説 .....	5
森家文書目録 .....	7



## 解 説

森家は、近世期に川崎宿内久根崎町に居住し、宿の間屋場役人などを務めた家である。その森家に伝えられた古文書が、この資料目録に掲載した森家文書で、件数にして1156件を数える。川崎宿ではたびたびの大火などで関連史料が罹災し、本陣史料などが存在しない中で、この森家文書が唯一近世川崎宿の姿を伝える文書群となっている。またその内容は、川崎宿の運営や機構以外にも、助郷や多摩川の六郷渡しに関する史料、あるいは絵図や和書類、さらに明治期以降の川崎町会や鉄道関係など多岐にわたるが、やはり核となる部分は川崎宿関係であろう。特に「川崎年代記録」は宝暦の大火で宿の諸書類が失われたため、周辺の宿場を調査して編んだ川崎宿の古記録であり、川崎宿起立後の様子を窺い知る貴重な資料である。また川崎宿本陣を務めた田中休愚が著述した『民間省要』の写本12冊が含まれており、多くの写本の中でも基本的な史料として位置付けることができるだろう。

さてこれまで森家文書の目録は、『神奈川県史資料所在目録—川崎市（その1）—』第42集および『博物館資料調査所在目録』（4）で紹介されてきたが、今回は新たに下記のような分類項目を立て、再整理をした上で目録作成を行った。なお内容によっては、他分野に関連する史料があったりするが、これまでは形態や編年のみの目録であったので、もう少し利用の便を考えた上での分類結果であるということで、ご容赦を願う次第である。今後の利用については、本目録を基本にいただければ幸甚である。

### [分類項目]

A. 支 配

B. 土 地

1. 検地帳
2. 高反別・地価
3. 年貢
4. 官有地

C. 川崎宿

1. 書留類 (古記録・御用留・明細帳ほか)
2. 人馬継立 (助郷・將軍上洛ほか)
3. 旅籠・飯盛女

D. 多摩川

1. 渡船・架橋
2. 川除普請

E. 用水・道路

F. 寺 社

G. 村政・村況

1. 戸口
2. 諸税・市町村歳入出
3. 選挙・議会
4. 学校
5. 村政一般

H. 当 家

1. 冠婚葬祭 (褒章・寄付・見舞・相続)
2. 土地 (売買・質地証文・小作・地券)
3. 経営
4. 個人記録

I. 絵図・地図

J. 鉄 道

K. 新 聞

L. 黒船渡来関係瓦版

M. 写 真

N. 雑

O. 書 籍

P. 木 札